

令和 2 年 9 月 2 5 日
四 国 電 力 株 式 会 社

高知県南国市におけるスマート農業への取り組みと新会社の設立について

四国電力株式会社（本店：香川県高松市、社長：長井啓介）と農林中央金庫（本社：東京都千代田区、理事長：奥和登）は、四国の基幹産業である農業の活性化に向けた新たな事業を行うため、農業法人「A i t o s a（アイトサ）株式会社」（本社：高知県南国市、以下「新会社」）を本年 1 1 月 2 日に設立いたします。

農業従事者の高齢化や後継者不足による就農人口の減少、耕作放棄地の増加など、地域農業は多くの課題を抱えており、近年、こうした課題の解決に向けて、ロボットや A I、I o T を駆使した最先端の農業、いわゆる「スマート農業」の技術開発に期待が高まっています。

新会社では、こうした「スマート農業」に着目し、南国市に栽培用ハウスを建設したうえで、地元の主要産品である「シシトウ」の生産を通じて、産地の維持・拡大に貢献するとともに、生産現場の省力化に資するスマート農業技術の研究開発・導入に取り組むこととしています。

具体的には、作業負担の大きい農薬散布と収穫作業の省力化を図るため、先端農業技術の知見を有する農業ベンチャー「銀座農園株式会社」と共同で、A I による画像認識技術の構築と、農薬散布および収穫用ロボットの実用化に取り組みます。

また、高知県の I o P プロジェクト※と連携し、ハウス内の環境データや植物の生体データに基づく効率的な栽培手法の確立を目指すとともに、将来的には、ここで得たスマート農業技術の知見・ノウハウを地域に水平展開することで、新規就農者の増加や既存農家の経営効率化を図り、産地の維持・拡大に繋げてまいりたいと考えています。

なお、当社は、新会社の設立に先立ち、本年 1 0 月 2 3 日、高知県、南国市および J A 高知県との間で、企業進出協定書を締結することとしており、今後、地元の自治体や関係機関、生産者の皆さまと連携しながら、本事業を推進してまいります。

※ I o P プロジェクト（I o P “Internet of Plants” が導く Next 次世代型施設園芸農業への進化プロジェクト）は高知県が優位性を持つ施設園芸分野において日本全国・世界中から研究者・学生・企業が集積する産業集積群を作り、最新の施設園芸関連機器、A I・I o T 技術を広く農業関係者に普及させることで、農家所得の向上や産地のブランド化につなげる産官学連携プロジェクト

(1) 新農業法人の概要

名 称	A i t o s a 株式会社
設 立	2020年11月2日（予定）
事 業 内 容	スマート農業技術の研究開発、農産物の生産・加工・販売など
所 在 地	高知県南国市植田
資 本 金	2,500万円
出 資 比 率	四国電力（株） 95% 農林中央金庫 5%
役 員	取締役2名（四国電力から選任し、うち1名は社長）
運 営 体 制	社員：数名 パート従業員：25名程度
(ロゴマーク) 	【社名に込めた思い】 地域・農業への愛とテクノロジー(AI)の力を結集し、 高知(TOSA)の地から、未来の農業を発信していく。

(2) 栽培施設

施 設 面 積	1号棟 約3,700㎡（2021年8月生産開始予定） 2号棟 約4,000㎡（2023年8月生産開始予定）
栽 培 方 法	養液栽培

(3) 今後のスケジュール

- 2020年10月 高知県・南国市・JA高知県との進出協定締結
11月 新規農業法人設立
- 2021年 2月～ 栽培施設（1号棟）建設
8月～ 定植、栽培
10月～ 出荷開始
- 2023年 2月～ 栽培施設（2号棟）建設
8月～ 定植、栽培
10月～ 出荷開始

<参考>

・銀座農園の概要

名 称	銀座農園株式会社
所 在 地	東京都中央区銀座1丁目3番1号
代 表 者	代表取締役CEO 飯村 一樹
事 業 内 容	農業システム開発およびマーケットプレイスの提供
資 本 金	1億7,471万円
設 立 時 期	2007年10月

・シシトウの年間栽培スケジュール



以 上